

## タウンミーティング 会議録

日 時：平成19年11月30日（金） 19:00～20:50

場 所：黒部市コミュニティセンター（生地）

テーマ：1．北陸新幹線新駅周辺の整備推進について  
2．新市庁舎の建設について  
3．子育て・教育環境の充実について  
4．消防・防災体制の充実について

参加者：68人

### 【事務局】

ご苦労さまです。ご案内の時刻になりましたので、ただいまから平成19年度黒部市タウンミーティングを開催させていただきます。

ご案内のとおり、今年も昨年同様、市内4つの中学校校下ごとに開催いたしております。

今回のテーマは、前のほうのスクリーンにありますように、北陸新幹線新駅周辺の整備推進について、新市庁舎の建設について、子育て・教育環境の充実について、消防・防災体制の充実についての4テーマについて開催させていただきます。最初に、このテーマについて市長からご説明申し上げます。説明につきましては、約20分ぐらいかかると考えております。その後に意見交換に移りまして、事前に申し込みのあった方から優先的にご発言いただきたいと考えております。それが終わりましたら、本日も参加の会場の皆様から順次ご意見をいただきたいと考えております。終了はおよそ8時半をめどに進めていきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、受付でアンケート用紙をお配りいたしました。本日実際にご発言されない市民の皆様からも、日ごろ感じておられることをご自由にお書きいただければと思っております。お寄せいただいた意見につきましては、今後の市政の参考にさせていただくことといたしております。

それでは、堀内市長からごあいさつとテーマに関して基本的な考え方を述べさせていただきます。

市長、よろしくごお願いいたします。

### 【市長】

**詳細については、「市長あいさつ及び課題提起」をご覧ください。**

### 【事務局】

どうもありがとうございました。

市長、中央の席にお移り願います。

それでは、ただいまから会場の皆様からご意見をお受けいたします。係の者がマイクをお渡ししますので、地区名、お名前に続き、ご意見を述べていただきたいと思います。

それと、もう1つお願いがあります。このタウンミーティングではできるだけたくさんの皆様からご意見を賜りたいと考えておりまして、発言はなるべく簡潔に、お一人3分以内ということをお願いしたいと思います。

それでは、あらかじめ発言を申し込まれた方からお願いしたいと思います。3名おられます。

まず初めに、荒俣のAさん、おられますか。じゃ、Aさんからお願いいたします。

【Aさん】

黒部市新庁舎建設について、実際として、市財政逼迫の今、新庁舎建設は真に市民のためになるかということで意見を述べさせていただきます。

その前に、けさNHKのニュースで、市長さんから話のありました、黒部市総合振興計画、10年計画の前半5年間の答申がありまして、新市庁舎の建設は継続審議ということでありました。私は、これとは別に、一市民としての意見を述べさせていただきたいと思います。特に、財政の面からお話しさせていただきます。3分間ということなのですが、なるべく簡単にしたいと思います。

9月定例会の辻靖雄議員の質問に対して市長は、1、現在の分庁舎体制による諸コストの解消、2つ、満足度の高い市民サービスの提供のためのより効果的な行政運営のあり方からも、本庁舎方式がより効率のよいことは明らかである云々と答えておられます。1つ、現庁舎の取り壊し及び新庁舎の建設費用、2つ、維持の経費が増し財政に及ぼす影響、以上の観点から、さらに深く精査、研究することが肝要であると思います。それで、市長の述べておられます、新庁舎による諸コストの解消のほか、それはつまり取り壊しあるいは建設費用と比べていかほどのものか。おそらく、微々たるものと思われま。また、2、満足度の高い市民サービスは現庁舎でも対応の仕方では可能であると思われま。

折しも、市財政は非常に苦しい状況であります。ここに富山県の平成17年度市町村普通会計決算状況の一覧表がございます。18年度は総務省がチェックしておりますので、まだ公表できないということで、ちょっと古いんですが、17年度の資料でございます。これによると、県が一般的に黒字または赤字団体の基準の一つとみなしている実質収支は、約7億5,500万円で黒字とみなされております。しかし、この実質収支とは、言うまでもなく、形式収支から翌年度に繰り越し、事業に利用すべき財源を差し引いたものでありまして、この形式収支は11億6,200万円でございます。ここで、黒部市の資料、平成18年度一般会計の前年度の欄を見ますと、市債が16億3,600万円含まれております。私としては、形式収支から借金であるその金額を差し引いたもの、こういう見方をしたわけでありまして、これによるともう5億円近くの赤字でございます。こういう見方からしますと、帳簿上は確かに実質収支は黒字であります、実態は赤字団体なのではないのかという思いがいたすわけでございます。

このことは、黒部市が、新川圏の市町、滑川、魚津、入善、朝日と比べても地方債の額が非常に大きいことでもはっきりしてきているのではないかと思います。ちなみに、平成17年度、地方債現在高は、魚津178億円、滑川130億円、入善110億円、朝日71億円に対して黒部が242億円となっております。ちなみに、氷見もよくない、336億円でございます。

それで、債務負担行為、18年度以降支出予定額というのは、やはり県の資料でございますが、魚津では9億円、滑川7億円、入善7億円、朝日10億円に対して黒部は31億円と非常に大きいわけでございます。氷見はさらに大きく41億円になっています。この予定額に対して、黒部市の資料、平成18年度予算の執行状況によりますと、予算現額が25億円で計上し、実際の支出が24億円と、約6億円強予定額より少なくなっているのではないかと私の見方でございます。ただ、これも私の一存の見方でございますので、間違いであるならば、また教えていただきたいという気も一方ではしております。

さて、最後に、実質公債費比率というのは、やっぱり県の資料でございます。これは、地方債の元利償還金に充当された一般財源の標準財政規模に対する割合の前3年度の平均値ということでございます。これは、やはり新川市町を見ますと、魚津市16.8、滑川18.8、入善13.0、朝日14.7に対して黒部市は19.3%と、一番高いわけでございます。ちなみに、県全体では16.0%、氷見が悪いといいましても、この公債費比率に関しては16.9でございます。

この数値が18%以上になると、この県の資料の説明では、地方債協議制度のもとで起債に当たり許可を要する団体となると明記してございます。許可を要する団体というのは、さらに詳しく具体的に述べております。公債費負担適正化計画の策定、そして実施を条件に許可されると、18%以上25%未満まではそういう状況で許可されると明記してございます。

私なりの見方では、場合によっては間違った、あるいは曲解した見方もあるかと思いますが、全体的に見まして、やはり黒部市というのはかなりよくない状況にあるのではないかという気がいたします。

もちろん、一市民として、今後、市庁舎が新しくなって、いろんな意味で、今市長さんがおっしゃられました、そういう希望の持てる、市民がまた胸を張れるような庁舎というのはだれもが望むものであります。最後に私の考えといたしましては、やはり今の段階では財政再建に全力を尽くし、その後、時期を見て新庁舎の建設に着手するのはどうかと、一市民の見方でございます。

ちょっと3分、長くなったと思いますが。

### 【市長】

ありがとうございました。

大変熱心にご心配をいただいておりますことに対し感謝を申し上げたいと思います。

まず、今朝ほどのNHKニュースを見られたんですか。私はちょっと見ていなかったんですが、前期の基本計画が答申されたということが、NHKのニュースで出ておったようであります。

そこで、先ほど言いましたのは、庁舎につきましては、これから審議ということではなくて、総合振興計画の基本構想の重点プロジェクトに位置づけられました。ということは、今後の10年間の計画期間で実施するという事は決定しました。あとは、どこで、位置、場所とか規模とか機能、内容についてこれから検討していくということの審議はしていかなければならないと思っております。

それから、その総合振興計画のことについて1点だけご説明申し上げますと、今回の総合振興計画、総合振興計画というのは先ほども言いましたように策定が義務づけられております。どこの市町も策定するという事ではありますが、今回我々が非常に重視したのは、1つは実行性を重視するという事です。実行性を重視するという事はどういうことかといいましたら、財源の裏づけのあるものだけを計画する、考えられること、理想的なことを全部総花的に出して、こういう計画ができればいいね、こういうまちなればいいねということではなくて、財源の裏づけのあるものを計画するという事です。ですから、当然、今後の10年間の財政見通しを立てて、その中で実現できるものを計画した、その中に新庁舎もあったということです。

庁舎につきましては、ですから、これから、どこに、どういう内容で、どうするのかということについては、今、庁舎内では副市長をトップに各部長さん方がメンバーに入って、庁舎建設の研究会をつくりました。そこで、これからの進め方をどうするのかということについては庁舎内で今検討しております。それらを受けて、来年度から市民の皆さん方に参加していただいて、では、どこに、どういう規模で、どういう内容、機能でつくるかということをも市民の皆さん方の検討組織をつくって、そこで検討していただきたいというふうに考えております。そこで、庁舎はそういう進め方で進めていきたい。

今、Aさんが心配されております、では、黒部市はこれだけの財政能力があるのかということなんですが、今ほど実質公債費比率が19.3%と言われました。それは17年度で、その数値も19.3から、実は、国のほうはもっと正確に出せということで、正確にというのは、これまで加算しなかった公債費も含めて出すようにその見方が変えられました。その結果、黒部市は実は22.2%です。19.3からまた悪くなりました。これは、おっしゃるとおり、県内で一番悪いと、一番たくさんの公債費、標準財政規模に対して、市債、

借金を返す金額の割合が22.2%あるということなので、それは確かに一番悪い。

一方で、実質公債費比率だけ見て、財政力というのはこれはわかりません。確かに、その実質公債費比率が一番悪いです。財政力指数という数値があります。それを見ると、今、黒部市は単年度で0.8、3カ年平均でこういう数値というのは出すというのが決まりですから、それでも0.73で、その財政力指数から見れば県内で一番財政力はあります。今日見られたかどうかわかりませんが、今日の朝日新聞にも県内のいろんな数値が出ておりますが、その中でも一番税収入が多いのは黒部市、人口1人当たりで今日は書いてありましたが、要は財政力指数は県内で一番高い。経常収支比率という見方もあります。説明したら長くなりますが、経常収支比率は84.8%となっておりますが、これも県内で一番数値的にはいいです。

そういうものをトータルで見て、ほんとうの黒部市の財政力、今後の財政見通しがどうなるかということを考えていかなければならない。我々はそういうことも踏まえて、先ほど言いましたが、財政の見通しを立てた上で、これからの10年間どうするかということで、先ほどから言うような、たくさんの事業を今計画しました。

それと同時に、我々は当然、言われるように実質公債費比率22.2が18を超えたら、確かに許可をもらわなければ新しい借金、起債ができません。ですから、当然それを改善する、22.2を、この計画年度の途中でありますが、平成29年までには18を切る、そういう見通しを立てております。また、起債残高も、先ほどはちょっと17年度の数字でしたから、18年度では起債残高が一般会計で234億円あります。それを10年間、こういうたくさんの重点事業を実現しながらも、234億円を220億円まで下げようと、それを増やさないようにしようということで、そういうシミュレーションを立てながら、そして財政見通しを立てて今のいろんな計画をつくっております。

ですから、心配される、22.2とかという実質公債費比率だけ見てすぐに夕張市みたいな話をされると、今、黒部市が大きなチャンス、新幹線の関連、新幹線の駅ができる、合併した、こういう大きなチャンスを生かしたまちづくりを私は積極的に進めるべきだと。なおかつ、財政的には改善しなければできない。その両立をやらなかつたらまず絶対活性化しない。借金返しだけして何のほかの事業もしなければ、それは借金は減るかもしれないけれど、まちは活力を完全に失ってしまう。そういう意味では、非常に黒部市は力も可能性もチャンスもありますから、それをどうやって両立してやっていくかということが大変重要だというふうに思います。先ほど、実質収支の話とかいろいろされました。必要なら、そういう直近のデータ、詳しいデータ、あるいは解説をつけたものをお渡ししても結構ですから、そういうものを見ていただいて、また、実際のところを知っていただきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げます。

それと、庁舎のことでもう1つ、今の財政状況を改善し、時期を見てからやったらどうかというご発言がありました。私は、この10年間の計画期間に庁舎問題を解決しなかつたら、今後はなかなかできないだろうと思っております。今、旧黒部市には、庁舎基金というものを約15億円積んできました。庁舎を建てるための蓄えといった基金を15億円。それから、規模も内容も決めないでどれだけ予算的に概算かかるのかと言われても、私は私でイメージを持っていますが、公の皆さんの前でこれぐらいですよということなかなか言えません。申しわけないですけども言えません。

ただ、庁舎基金が15億円あるということと、もう1つは、庁舎を建てる上では補助金というのはほとんどありません。ほかの事業は、教育とか福祉とか、いろんな公共事業は補助金というものがかなりありますが、庁舎についてはほとんどない。そうしましたら、足りない部分は自己資金でやるしかないわけです。この自己資金があるのかと言われてたら、それはなかなか難しい。ただ、使えるものは1つだけあると思っております。それが合併特例債です。合併特例債を利用して、そこに投資した特例債の7割が交付税

措置がされるということでもありますから、残りの3割、正確ではないです、おおよそでほんとうはもうちょっと細かい数字があるんですが、約7割が交付税処置されて、残り3割について実質的に市が負担するという事になれば、数年間の計画の中、数年間というのは、実際庁舎についてでも、単年度、1年間でぽっと建てるわけではないですから、数年間かかって完成させるとすれば、それは私は今の黒部市の力ならできる、この10年間でやればできる、その後だったらなかなか難しいのではないかとという中で、今、この庁舎についてはぜひ実現したいと思っているところであります。

財政的なものの数字については、必要ならこちらから資料を出させていたいただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

#### 【事務局】

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

続いて、2番目の方に移りたいと思います。生地のBさん、会場におられましょうか。今、マイクをお持ちしますので。

#### 【Bさん】

こんばんは。生地のBと申します。どうぞよろしくをお願いします。

私は今、生地で子育てをしているのですが、今年になりいろいろ教育について考えさせられることがあり、ぜひこの場をおかりし市長のご意見をお聞きした上で、テーマの1つである子育て・教育環境の充実について発言させていただきます。前もって、提案要旨を送っていたのですが、ちょっと書き切れなかった内容もありますので、その部分は市長の率直なご意見をお聞かせください。よろしくをお願いします。

今年から子供を生地幼稚園に通わせています。市長もご存じのとおり、今年の7月、生地幼稚園を来年度から休園にする方向になりました。7月から4回にわたって市役所の方と保護者で協議の場を設け、話し合ってきました。3回目までの話し合いでは、親として合意できず、きのう4回目、市役所の方から、来年4月から生地保育所と幼稚園を幼保一元化に向けて、黒部型の幼保を一緒につくるため協議しましょうというご提案を受けました。前向きなご提案で大変うれしかったです。しかし、その反面、3回目というのが11月20日にありまして、そのときまでに受けた内容は、生地幼稚園は休園しますと、幼保一元化もまだ予定はありませんという内容だったので、10日間の間で急に変わってしまった、幼保に切りかわったので、その急な変化に大変驚いているということと、もともと保護者が休園に反対していた理由は、幼児教育を地元で受けさせたいのに、それができなくなるという根本的なところ、親の幼児教育を受けさせたいという思いを、ほんとうに市長自身をご理解していただけたのか、きのうの時点ではまだわからなかったという点です。

どうしてそこまで私たち親が幼児教育というのにこだわっているかということなんですけど、教育基本法に、幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な場と書かれています。もちろん、幼稚園だけでなく家庭、地域も幼児に大変大きな役割をしますが、やはり幼稚園ならではの部分も大変大きいです。例えば、小学校前に身につけさせたいマナーとして人の話を聞くなど、やはり親元では甘えなどがあり、なかなか身につけさせられない部分が、子供たちを見ていると身について小学校に入学していく姿などを実際見ていると、やはり黒部市に幼児教育はなくしてほしくないと常々思っています。

今後、幼保一元化の形に向かっていく中で、まず、ここで市長のご意見をお伺いしたいんですが、保育所のいいところの中にしっかり幼稚園のいいところも根づかせていただけたのかということです。

ぜひ市長の幼稚園、幼児教育についての方向性、あるいはお考えについてお聞かせください。

【市長】

ありがとうございました。

4度にわたって皆さん方とご相談を重ねさせていただいております。過去3回、休園ということで話があったということではありますが、1つの基準はつくってございましたが、その段階でも、20年度から休園するという結論を持って皆さん方に説明をさせていただいたということはないと思います。皆さん方と相談しながら、実は黒部市も悩んでおるわけです。黒部市も、施設、幼稚園をなくすればいいということではなくて、少子化の中で、施設に子供が入っていく中で、ほんとうにこれからどういう方向でいけばいいのかということとずっと担当課も悩んでおりました。認定こども園とか幼保一元化のやり方がいろいろあります。ただし、国の制度というものが大変厳しいところがありまして、ご承知のように、幼稚園は文部科学省の管轄でそこで決められたルール、そして保育所は厚生労働省のほうで決められたルール、それをどうやって合わせていくのかというようなことについても当然研究しております。

しかしながら、幼稚園は幼稚園の、確かに幼児教育というのはすばらしいところがあります、私も実は幼稚園のPTA会長を2回中央幼稚園でやりましたが、そういう中で、幼稚園教育を受けさせられる方は幸せだと私は思っております。なぜなら、できるだけ親が子供と一緒に子供を養育したい、自分の手で養育したいという基本的な考え方の中で、子供を幼稚園に預けて幼児教育をしてもらう。親と幼稚園が一緒になって子供の子育てをするという考え方です。保育所はそうではなくて、保育に欠ける方、保育が自分でなかなか難しい方が預かってもらう場所です。

ですから、幼稚園教育というのは私は大変大事だというようには基本的には思っております。できるだけ、三つ子の魂までは言いませんが、ある人に言わせたら、7つ、8つ、「つ」のつくところまではできるだけ親と一緒に時間を過ごしたほうが子供の教育にとっては絶対いいし、そのことが親子のきずな、いい親子関係をつくることできると思います。

だから、今回、生地幼稚園と、白鷹の方が来ておられるかどうかわかりませんが、園児を募集したら、大変残念ながら生地は10人以下で9人になりました。白鷹は13人になりました。それを、今までどおり続けるかどうかについては大変悩ましいところがあります。それを皆さん方と相談して、基準からいえば、幼稚園と保育所は違いますが、一方では来年度から休所する保育所があります。はっきり言いますが、愛本保育所は来年度から休所です。それは、今年度は20名を切って17名でしたが、もう一年間様子を見て相談しようということをお話して、来年度からは休所ということに決めさせていただきました。これは決定です。

そういうことも踏まえながら、やはり1つの基準がなければ、たとえ1人になってでも続けていくのか、あるいは、ある基準を設けて、そういう場合にはどういう方法にすればいいのか具体的に検討するという1つの基準を設ける中で、担当者がほんとうに寝られない思いをしてここ何カ月かやってきたと私は思っております。説明の仕方がいろいろあったかもしれません。ただし、会議録の中にもありました。保護者の皆さんからこれは敵対しているんですかという言葉がありました。お互いに、敵対して反発しているのではなくて、新しい方向性なりどういう方法をとるのかということで、やっぱり市当局も大変悩んでおります。そういう中で、先ほど11月20日の第3回目の説明から、きのう、10日間ほどで急変したと言いました。確かに皆さんへの説明については急変という格好になるかもしれませんが、一方では、その方法も考えていたということです。

それで、皆さん方のいろんな会議録とかいろんなお話を聞くと、皆さん方も悩んでおられます。我々、

市の担当者も寝られない思いをして悩んでおります。ならば、幼保一元化、これから残された4カ月ほどの間に、そこまで間に合わせることができるかどうか。事務的には正直な話、3カ月ほどあれば何とか間に合わないかとは聞いております。ただ、幼稚園の皆さん方にはこれまで何回もいろんなご相談をしましたが、保育所側には全くしていません。これから保育所側に説明をして、お互いに了解をした上で、限られた時間の中でどこまでやれるか、それをこれから模索していきたいと思っております。できるだけ私は、担当者には間に合わせてほしいということは言っております。何とか間に合わせてほしい。そして、最悪、いろんなことで時間が少しかかったと。それは皆さん方に不安を与えないようにやっていきたいと思っておりますので、その点、少子化の中で、今後の幼稚園、あるいは保育所も含めてなんですが、あり方については、大変悩ましいところがありますが、お互いに納得できるところで合意をさせていただきたいと思っております。

これからまた一方で保育所側に説明に入りたいと思います。確かに、2つの制度が全く違いますので、保育料と授業料の関係もありますし、料金の話もありますし、場所、あるいは会計事務、すべて別々にしなければならぬところがございますので難しい点もありますが、この際、何とか黒部バージョンで一元化ができんかということについては、限られた時間で何とかしたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

#### 【Bさん】

済みません、引き続きなんですけど、昨日の説明会で、幼保一元化に向けては親も協議に参加して一緒にやっていきたいと思いますという内容だったので、親としても、そこで「はい」という返事をして一緒に向かっていっていいの、ほんとうに責任重大だったので、不安な気持ちがあったのですが、今ほど、幼稚園教育に対する市長の非常に高いご理解があるのと、あと、悩みながらも大変前向きに幼保一元に向かっていらっしゃる市役所の職員の方の姿勢などを伺えたので、ぜひ、また保護者、皆さんで、大変難しい3カ月間、4カ月間だと思うんですけど、より協力的な気持ちで臨んでいけるような気がしました。ぜひ、何年かかかるかもしれませんが、理想的な子育て、教育の場のいいところを両方兼ね備えた場ができることを願います。

もう一つ、提案要旨に書かせていただいたことなんですけど、子育て支援についてです。

幼保一元化にもし進むとした場合、保育所の施設を基本的に利用しますと言われました。となると、幼稚園の園舎が使われないまま置いておかれることになります。地域に使われないままの状態の施設があると、何となく地域のイメージダウンだったり風紀の乱れというのが非常に気になります。今後、学校の統合などもあるという内容だったので、そういう施設が増える可能性があります、そういう課題について、そういう施設を子育て支援の場に使ってみてはどうかと私は考えました。

例えばですが、未就園児の親子で遊ぶスペースなどに使ったり、あと、保健センター、児童センターで子育て支援をされていますが、その分所的な役割を持たせたりという活用をすることで、地域で子育てをされている皆さんにとって大変心強い場になるのではないかと考えました。地域で子育てをされている保護者もいれば、お孫さんを見ていらっしゃるおじいちゃん、おばあちゃんもいらっしゃいます。生地から子育て支援を受けるのには、三日市あるいは中央の児童センターなどへ行くとやはり車で行かないといけないので、お散歩がてらに行ける子育て支援の場があれば、地域の活性につながっていくのではないかなと思いました。

働く保護者の子育て支援は、保育所の時間延長や保育料など大変充実しつつあるように思いますので、平等に、家庭で子育てしている親やお孫さんを見ていらっしゃるおじいちゃん、おばあちゃんに対する支援もいい

と思うので、地元で子育て支援の場があると大変心強いと思います。このような施設をこれから何か生かしていこうとお考えであればお聞かせください。お願いします。

#### 【市長】

幼稚園施設の今後について、もしあそこが使われなくなった場合、そういう子育て支援等に利用していくということについては、1つのアイデアですから、そういうふうと考えていければと思っておりますので、検討していきたいと思います。

また一方では、例えば、旧宇奈月町の4小学校が統合されて、昨年の4月から1つの小学校になりました。そうすると、4つの小学校が今使われなと思います。それぞれその跡地利用についているんな意見、1つは、愛本地区については、今、あそこにコミュニティセンターを建てるために、もう解体工事も発注しましたし、施設をつくるための計画が進んでおります。残った施設を全部維持していくということになれば、子供が減ったり、いろんな先ほどの財政の活性化の話もある中で、施設の維持費というのは継続してずっと抱えていく、背負っていくのかということについては、これはやっぱり慎重に考えていかなければならない。

農協さんでも各支所を廃止されました。そういう中で、その支所全部、基本的には解体の方向で進んでおります。持っているだけ管理しなければならないし、お金がかかりますから、それは農協さんとすればそういうふうになくする方向であると思います。ただ、黒部市は、農協さんの支所と公民館と併設された地区もありますから、そういうものについては今相談させていただいておりますが、とにかく、施設をたくさん、あるものがなくなったら寂しい、それはよくわかるけれども、では、全部それを抱えてこれから動いていくのかということについては、それは慎重に考えなければならないし、あるところでは、今の生地幼稚園をどうするかということは別にして、全体の話とすれば、すべての施設を抱えながら動いていくということは大変な負担になるというようなこともありますから、そういうところも考えながら進めていきたいと思っております。

#### 【事務局】

よろしいでしょうか。

それでは、最後になりますが堀切のCさん、おられますか。同じく、子育て・教育環境の充実ということなんですが、よろしくをお願いします。

#### 【Cさん】

堀切に住んでいますCと申します。

実は、先ほど話題になった幼稚園の件で、私のほうは白鷹幼稚園のほうに通わせているんですが、テーマ、題名ともに事前に資料は送っていると思いますので、簡潔に言いますけれども、1つ内容としては、黒部市として幼児教育にもっと力を入れてほしいということ。保育所への支援はあっても幼稚園の支援が全然されていないということで、幼稚園が近くにない地域や、共働きの家庭で幼稚園教育を受けさせたいけど、幼稚園に通わせるのはちょっと難しいという保護者への支援をお願いしますということで、2つの提案を出させていただきました。

1つは、黒部市内のすべての地区から幼稚園に通えるように、小学校を起点としてスクールバスを運行するという事です。黒部市では4つの幼稚園しかありませんが、地区、小学校に至っては11ですか、要は小学校の校下ではあるけれども幼稚園がない地区があるという地区における保護者で、幼稚園教育を受



けさせたいという保護者を集めるためにバスを運行してはどうかと。その地区の地域性も考えまして、小学校を基点として、その地域で小学校に上がる、そういうことを前提とするんですが、まず幼稚園を卒園したら小学校に上がるんですから、小学校に一度集まってもらって、そこからスクールバスで、中央なり、三日市なり、白鷹、生地に、今は4つですけど、4つの幼稚園にバスで園児を集めるという方法です。

これは人数集めなんですけれども、もう1つは、共働きの家庭でも幼稚園に通わせたいと思っている保護者のためですが、まず、時間が幼稚園は短いです。そのために、子供は共働きしていたらちょっと無理ということなので、子供の朝早くの受け入れや、2時以降の延長保育ということ、また、夏休み、冬休みがありますので、その間の長期の休みのときの預かり保育というものを考えていただきたいと思います。

今、ちょっと状況のほうが変わりまして、この提言のきっかけは、白鷹は人数が少ないということで休園という話があったので、うちは今年の9月から途中から入園したんですけれども、保育所から幼稚園のほうにかわってきまして、通わせ始めて、これは幼稚園教育っていいものだなと思い始めた途端にこの休園の話が来たので、ちょっと寝耳に水だなという驚きでもあり、戸惑いもありました。

逆に言えば、その説明というか、それがきっかけで、黒部市でどういうものを、そこから必死になって勉強して、今の総合振興計画ですとか学校教育基本計画ですとかというものを一生懸命調べて、どうなっているのかなというふうに、黒部市をよく知る機会になったと思いますので、個人的には確かに勉強になったのですが、やっぱり自分の子供のことでありますからやっぱり必死になると。こども支援課さんと説明を繰り返しながら、休園という姿勢を崩さなかったのが、ちょっと不満というか不信感というのも募らせてきたところなんです。

ただ、休園という姿勢を進めるために、白鷹では地域性が強いのか、何せ白鷹を存続させようという動きだったんですが、私は個人的にこのタウンミーティングで提言したのは、黒部市の全体としての幼児教育を残したいということで、じゃ、人数が足りないのであれば、ほかの地域でそういう隠れた要望というんですか、幼児教育を受けさせたいという親がいるんじゃないかということで、じゃ、その人たちにも提言して幼稚園に通わせるようにしたらどうかということ。あと、共働きですね。要は、幼稚園教育自体を広げていこう、推進していこうという動きで提言したわけです。

ただ、つい最近になって、幼保一元化ということで、こども支援課さんのほうが保護者と一体となって話し合いを進めていこうという話ですから、保育所と幼稚園の保護者の意識の違いというものはかなり大きいと思うので、今から保育所に説明に行かれるということでしたが、保育所側からの反発、うちは結局保育所から幼稚園にかわったほうですから、保育所に対する不満ですとかというのはわかっているつもりで、そのほうも幼稚園教育はこういういい教育だということで、保育所の方々にも理解していただこうとは、精いっぱい努力をしようとは思っていますが.....。

#### 【事務局】

ご発言中、大変申しわけないですけど、まとめていただけますか。

#### 【Cさん】

それで、幼保一元化にはそれだけ労力を使うということなので、短い期間でそこまで果たしてできるのかという不安が隠し切れませんので、もし間に合わなかった場合、やはり今までの存続とか、また、バスの運行だとそんなに労力がかからないと思うので、そういった案も加味していただきたいなと思います。

#### 【市長】

ありがとうございました。

先ほどのBさんのご質問にもお答えしたとおりでありますので、4カ月ほどの間で、間に合わせられるように最大限の努力をします。それで、万が一ずれ込んだ場合には、皆さん方に不安を与えないようにしたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

それから、スクールバスということで出せばいいのではないか、幼稚園のニーズに対してもう少し幅広く、残念ながら4カ所、大布施に1カ所、三日市と生地と石田ということでありまひるので、ない地区には、これまでは幼稚園教育を受ける機会がなかったわけではないのですが、通おうと思ひたらそこへ通ってもらえば結構なんですけど、なかなか遠くからは来られないということで、スクールバスを出したらどうかということでありまひりますが、これまでは父兄の皆さんに送り迎えをしていただいておりますので、引き続きそうあつて欲しいなと思ひます。

ただ、ほかにどれだけ幼児教育、幼稚園に通うことにニーズがあるかどうかということについては、これは一回調べる必要があるのではないかなと思ひますので、もし幼稚園へ通いたいというそれだけの皆さん方の希望があれば、また、どうやって通うかということについて検討させていただきたいと思ひます。

もう1つは、さっきも言ひましたが、幼稚園のルール、文科省のルール、厚生労働省のルール、これは崩すことはできません。それは国のルールですから、それを崩すということはできません。補助金をもらつて、いろんな支援をもらつてやっているわけですから、あとは幼稚園と保育所の違い、たくさんありますが、それを言つておつたら切りがなくなりますが、それをお互いにどう理解するかだけです。同じ敷地内に例えば保育所へ通っている人と幼稚園に通っている人が同居するわけですから、違いは当然あります。幼稚園は幼稚園のルールで当然引き続きやる、保育所は保育所のルールでやります。それを同じようにしてくれということになると、それはできないところはあります。その辺についてはこれからまた担当者からよく説明もさせますので、理解をしていただきたいなと思ひておりますので、この点に含めましても、逆に保育所側にどう説明し、納得してもらおうかということのほうが、難しいとは思ひませんが、ちょっと時間が必要かなと思ひておりますので、よろしくお願ひをしたいと思います。

#### 【事務局】

それでは、事前に申し込まれた方のご発言は終わりましたので、本日お集まりの会場の皆さんからご意見を賜りたいと思ひます。先ほど、本日は4つのテーマがございましたけれども、ご発言になられた方がございましたら、挙手のほうをお願ひいたします。

#### 【Dさん】

市長さん、こんばんは。石田のDと申します。

子育て・教育環境についてお願ひします。

続けてで大変皆さんに申しわけないんですけども、私は白鷹幼稚園の保護者です。まず、今回の幼保一元化の提案ということで、休園問題に対して選択肢を考えてくださったことに感謝申し上げます。黒部市にお嫁に来てよかったなとほんとうに思ひています。ありがとうございました。

今ほどのBさんやCさんのご発言に重なる部分もあるんですけども、ちょっと私に提案がありますので聞いてください。

4月から実施ということで、先ほども不安の声が上がりました。市長さんは、皆さんに不安は与えないということで今ほどお話しされたんですけども、それについて、ちょっと始め方の提案をさせていただきます。まずは、4月は1時間。いろいろ4月から始めようということで、4月から始めることは賛成です。先に

延ばしたからいいものになるというものでもないと思います。ただ、保育所の方たちのいろいろなご意見、こちらからもいろいろな希望があると思います。実際に検討を始めた際に、調整が難しい場合、4月から保育所へ子供たちがぼーんと入ることになったら、やっぱりちょっと子供たちは急激な変化に対応できるかなという不安はあります。まずは、もしそういうことが難しいという場合、4月は1時間保育所で過ごす、次の月は2時間過ごすという方法にして、徐々に課題が出てきたら、その場で検討し、子供たち、先生方の交流を深め、6月なり9月、完全実施という方法はいかがでしょうか。これから、先ほども言われましたが、保育所の方々にも説明があると思いますが、先の見通しのあるビジョンを示せば、保護者の方も納得される近道になるのではないのでしょうか。

以上のことについて、市長さんのご意見をお伺いしたいと思います。

#### 【市長】

ありがとうございました。

徐々にということは、ご心配の中では当然だと思います。おそらく、子供はわりとすんなり入っていけると私は思います。保護者の皆さんと関係の人たちがその辺に対して早く理解し、なじめるかということのほうが、子供はそんなに心配していないんですが、幼稚園側と保育所側のいろんな話し合いの部分で、少し時間がかかるところもあるのかなと思いますが、基本的には職員同士の話し合いになるわけですから、そのために幼保一元化に対する一括した責任をこども支援課に持ってもらったわけですから、その辺はこども支援課が責任を持って、お互いの職員の調整を図るということだと思います。

あと、決められたルールに対しての事務的な手続については、それはどうであれ間に合わせると言っておりますので、事務的な手続は心配しておりません。

あと、保護者の皆さんにどういうふうに説明をし、ご理解をいただくかということではありますが、1時間ずつというのは子供にとってはどうなのかなという、その辺についてもこども支援課と相談させてもらいますが、子供たちにとってどうなんだろうなという気がします、今のところ。また、よく相談をさせていただきたい。また、こども支援課のほうにそういう意見も言っていただいて、いろんな話をさせていただきたいと思います。

#### 【事務局】

どうもありがとうございました。

じゃ、前のほうの女性の方。

#### 【Eさん】

せっかくの機会ですので、発言させていただきます。生地のEと申します。

けさの新聞に、先ほど市長さんが説明されました黒部市総合振興計画の審議会からの答申というのを大変興味を持って読ませていただいたところ、また市長さんから今日はダブルでお話を聞けまして、よかったなと思っています。今後黒部市がどう発展していくのか、私のような者でも大変楽しみであります。ぜひ健康で長生きして、新幹線もまた黒部から乗ってみたいなと思っております。市長さんは、行政と市民が協働してそういう計画を実現していきたいと述べておられると最後に新聞では結んでありました。

各地区の市民の活動にもいろいろありますけれども、大きな拠点は何といても各地区公民館であると思います。その公民館で、自治振興会を中心として、地域の皆さんは自分の住んでいる地域をよくしようとボランティア精神で頑張っていることも市長さんもよくご存じだと思います。私も、仕事をしていると

きは、何かに参加するだけで、お役に立つということはありませんでしたが、退職して、ほんの少しですけどお手伝いしてみますと、何と皆さんすばらしく、そういう精神力で活躍していらっしゃるなと思っております。

その自治振興会を支える根本にある財源というものは、やっぱり何といっても一番しっかりとして対応できるのは自治振興会の補助金であろうと思います。それが、ちょっと苦言を言うような発言になって、言おうか言わまいかと思いましたが、目の前にいらっしゃるのをつい手を挙げてしまいました。少しずつ何年間を経て減額になっていくと聞いております。財政事情はどこも大変でして、削減できるところはどこかということになさって、どこの市町村でもそうだろうと思いますけれども、地区ではそれぞれその地区の自分のところの特徴を活かして、私自身も自分の住んでいるこの黒部市が、生地が、明るくて住みよくて、そしてみんな近所仲よくて、防災や何かあってもみんなで助け合える、福祉の精神も豊かに、そういうまちを目指して皆さん頑張っていると思うんです。そういうところの補助金というものは、金額、全額を見ますと、そんなに減額なさらなくてもいいんじゃないかというふうに、私のような考えなんですけれども、思っております。

きのう、地区社会福祉協議会の会合もありました。事務担当者によりますと、だんだん少しずつそういう補助金が減額になってやりにくいという、そういう話も出ておりました。そういう意味で、ほんとうに地元でみんなが頑張っているようなそういうところは、ひとつ削減の対象にならないようにできないものでしょうかという、今日、明日お返事をいただかなくても、提言をじかにさせていただきました。大変失礼しました。

#### 【市長】

ありがとうございました。

補助金については、補助金審査委員会を設置し1件審査をしていただいております。これは市民の皆さんの代表が入って、補助金についての審査をいただくわけではありますが、確かに、基本的にはメリハリをつけたいんです。メリハリをつけて、一律にシーリングをかけて5%カットとか何%カットとかということよりも、メリハリをつけていきたいと思えます。ただ、審査をすると、それぞれにこれまでの歴史とか取り組みというのがしっかりあって、実際、廃止というものも実はありますが、ある程度は皆さんに協力をもらわないと全体の金額は歳入が足りないわけですから、その点については理解をしていただきたいと思えます。

それから、おそらく、補助金の分け方についてもご意見があるんだと思います。確かに、どういうルールで、全体の自治振興会に対する補助金というのは全体枠を決めて、それを分けさせていただいて、それには計算式をつくってあるわけではありますが、全員が納得するというようなものはなかなかないわけがあります。確かに、人口とか、面積とか、宅地割とか、農地割とか、基礎割とかってつくっておりますが、どういう方法ですればいいのかということについては、ぜひ自治振興会の連絡協議会の中で議論をしていただきたいと思えます。

ただ、また今日の新聞記事を見ておまして、朝日新聞だったんですが、歳出で、富山県内の中で人口1人当たり一番お金がかかっているのは実は南砺なんです。南砺市が1人当たりの人口に対して一番予算がかかっております。その理由というのは、やはり面積が大きいからです。面積が大きいということが一番の理由なんです。8町村が合併したわけですから、施設が多いとかいろいろなものがあるんですが、やっぱり面積が大きいということはそれだけコストがかかることにもつながるということもありますので、その辺の理解もぜひしていただきたいと思えます。ぜひこの点については、連絡協議会の方でまた協議を

していただければと思います。

補助金については、できるだけ切らないようにしたいのですが、全体の枠の中では特に来年度は厳しいです。これまで以上に厳しいのが平成20年度。いろいろな特殊な要因もありますが、大変厳しいわけで、今から予算編成するわけでありましたが、大変頭が痛い、どうやっておさめるかなというところが来年です。ぜひそういうこともご理解いただいて、ご協力もいただきたいと思います。

#### 【事務局】

それでは、よろしいでしょうか。では、後ろの方。

#### 【Fさん】

生地のFと申します。

防犯についてちょっと伺いたいんですが、新興住宅も非常に増えておるんですけど、黒部市も防犯に対しては力を入れておられるんですが、防犯に対しての、防犯灯、常夜灯、これは黒部市全体でどれだけ設置、新しい防犯灯をつけておられるのか、それをちょっとお聞きしたいんです。特に、生地なんかでも新興住宅が非常に増えています。黒部市として、市長さんが、これからもですけれども、防犯灯をどのくらい設置していかれるのかなと思うし、また、黒部市はあまり犯罪が多くないんですけれども、テレビを見たら、青色灯を夜つけておけば、要するに犯人はよくわかるということですが、そういうものは黒部市にもあるのか、今後どういうふうに思われるのか、そこら辺をちょっとお聞きしたいんですけれども。

#### 【市長】

ありがとうございました。

ちょっと防犯灯の数は正確には記憶していないんですが、2,700、800ぐらいになっていないかなと思います。約それぐらいです。それで、年間の管理費が3,000万ほどかかっております。それは電気代と、電球を交換したりするお金が年間3,000万ほど。私は基本的には、旧黒部市のときは防犯灯の本数はこれ以上増やさないと考えておりました。ただ、今言われたように、いろんな電球があります、今。例えば、3本ある防犯灯を1本減らしてナトリウム灯にかえたら、明るさ的にはまだ明るくなるぐらいです。ですから、そういうふうに関引きをしながら、本数は減らすわけじゃなくてどこかで増やしていくと、必要なところで増やしていくような考え方もあります。

ところが、明るくしたら、今度は農家の方から苦情が出たんです。稲が寝なくなると、どうしてくれるかといって、変えてから戻したところもあります。何をしてくれたんだと。だから、場所によっては、街なかではそういうことはないかもしれませんが、場所によってはあまり明るくすると、稲の生育に影響が出るとか、そういうこともありますので、その辺は、防犯灯をここにつけてくれといってつけたら、後からほかの方から、そんなところにつけられたら困るといって、電球を変えとか、場所を変えとかということもありますので、ぜひそういうことも含めて研究していただきたいと。

合併後はあまり本数のことは言っておりませんので、必要なところはつけさせていただきたいと思いますが、ただ、全体とすれば、今ほど言いましたように、維持管理費もかなりかかりますので、できるだけ、3本を2本にして、明るい電灯にして、そして、移設みたいな格好で全体を増やさないという考え方もしていきたいと思っておりますので、またよく担当者と相談していただいて、ここは是非というところについてはつけなければならぬと思いますので、よろしくをお願いします。

## 【事務局】

大体時間になっておりますので、ほかに発言される方はおられますか。じゃ、あとお二人ということで、じゃ、まず女性の方から。

## 【Gさん】

生地のGと申します。

生地幼稚園のPTAを代表いたしまして質問させていただきたいと思います。

さきに発言された方々の内容と重複しているところがあるかと思うんですけれども、その点はどうぞご了承ください。そして、同じような内容で、参加されている方々にも大変申しわけないんですが、どうぞご了承ください。

このたび、幼保一元化への第一歩を踏み出していただけたことは大変喜ばしいことだと思っております。堀内市長のご決断に感謝申し上げます。それで、この幼保一元化に関しまして、今後協議を進めていく上で、先ほどからも話題に何度も出ておりますが、幼稚園教育というものを十分に取り入れて子供たちの成長を支えていっていただきたいというのがPTA全員一致の意見なので、また、こちらをちょっと頭の片隅にでも入れておいてください。そして、幼保一元化をまた責任を持って取り組んでいただきたいと思っております。そのための協力は幾らでもいたしたいと思っておりますので、他市町村からも、黒部型幼保一元化は素晴らしい、見習いたいと言っていたようなものにしていただきたいと思っております。

それで、先ほど市長さんも、保育所、幼稚園、2つのルールの違いのものが1つになるので、国が決められたルールは破れないと言われていましたけれど、先日の市役所の方からの説明では、このルール、枠組みを取っ払って、今までにないようなものにしていかないと難しいということで、新しい黒部型幼保一元化を目指していくということだったんですけれども、その黒部型幼保一元化というものに対して、黒部の市長である堀内さんのイメージといえますか、こういった感じのものを描いておられるのかというのを伺いたいというのが1つと、今、盛んに民営化というものが行われておりますけれども、この幼保一元化もまだきちんとした状態でない今は、まだ民営化というものは絶対にしないでいただきたいというのも、1つですので、どうぞそのことをよろしく願いいたします。以上です。

## 【市長】

先ほども言いましたけど、幼稚園教育というのは、基本的には、親が子供を自分で養育する時間を長く持ちたい、ここが大事なんです。今はいろんな就労形態、働き方がありますから、0歳児から保育所なりに預けて共働きという方がたくさんおられます。それはいろんな状況がありますから、それらにこたえていくために、黒部市も0歳児から預かっております。いかなるときにも、特に保育所の特別保育の人数というのはほんとうにどんどん増えております。延長保育、一時保育、休日保育、やがては例えば年末年始保育、病後児保育、要は365日いかなる場合も子供を預かってくださいという形にどんどん近づいております。そういう中で、我々はその子育て支援にどう対応するかということについて、非常にやはり苦慮しております。そういう中で、最後に言われた民営化、柔軟に対応するには、やはり民間の発想とか、そういういろんな柔軟なやり方というのは、特別保育などに対応するには民営化というものは必要だと私は思っております。

今、2カ所、三日市保育所と田家保育所を民営化させていただいて、来年4月からは大布施保育所も民営化になります。民営化になった後、保護者から苦情というのは全く来ません。そして、しかも、民営化保育所の人数はどんどん増えております。三日市保育所は当時、民営化前は140人定員だったのが今170人

です。それでもまだオーバーしています。保護者はそこを選ばれるんです。

では、公立でなぜできないか。やろうと思ったらできないことはないわけです。ただ、非常にコストがかかる。あるいは、公平の原則ですから、ここはやれるけどここはやれないということはできんわけです、基本的には。この保育所はやれるけど、あっちの保育所は子供が少ないから、保育士の人数が少ないからそこまでは対応できませんと、そういうことは言えなくなります、公立の場合は。

ですから、民営化の対象保育所というのは5カ所選びました。今、3カ所まず先に進めております。あと2カ所は三島保育所と石田保育所です。ここについては、条件を整えればやがては民営化したいと思っております。ただ、2カ所については今のところ条件が整っておりません。なぜ5カ所選んだかといったら、将来的に100人以上の子供を保育している保育所でないと民営化は無理だと思っております。逆に言ったら、それ以下の子供では特別保育に対応するのが非常に難しい。そういうこともあって、私はできるところは民営化していきたいと考えて、今準備を進めさせていただいております。ぜひ、そういうことも含めてご理解いただきたいと思います。

それから、幼保一元化のイメージについてどう考えているかと。そのことについては、具体的にはまだ担当課と詳しい打ち合わせはしておりません。黒部バージョンで、何とか幼保一元化の黒部版をつくってくれと。そうじゃなかったら保護者の皆さんにいろんな心配をこれからもかけることにもなるし、何か方法を考えてくれということをお願いしてあるだけで、しておりません。

ただ、さっき言った、できるだけほんとうは親と子供と一緒に生活する時間を持つということが大事。それがやがて親子の関係とかきずなに必ず影響してくると私は思っております。ぜひ、そういう幼児教育を中心とした幼保一元化を図るべきだろうと。

それともう1つは、やはり今のお父さん方の働く状況とどこまでバランスがとれるか。今、朝30分ほど早く幼稚園で受け付けているんですか。ちょっとさっき資料を見ておったんですが、早朝受け入れで、8時から8時30分の受け入れの実施などもやっているということでありまして、また、夏休みの問題とか、あるいは延長保育時間の問題、それらについても、今度は費用の問題があるんです。幼稚園の場合は、ご承知のように一定の料金でやらせていただいております。保育所の場合は7段階の保育料でやらせていただいて、それらとの兼ね合いを考えながら、どこまで皆さん方に経費をお願いするのかということもありますから、それらもあわせてこれから詰めさせていただきたいと思います。

#### 【事務局】

よろしいでしょうか。じゃ、最後になりますけども。

#### 【Hさん】

最後になりますけど、苦言を呈したいと思います。

先ほど市長が、市のほうでは幼保一元化のほうを進める中で、一度も休園と言ったことがないと。当生地地区として、昨年の東部保育所のアスベスト問題で、東西を一緒にして生地保育所1つにしたと。その後、言葉で申したんですけど、幼保一体化も考えたらどうかというて、昨年の5月1日に幼保一体化の要望書を出したわけですね。要望書というのか陳情書というのか、その時点から、もう生地は少子化になって幼稚園が存続するのは難しいだろうという話が出ておったんです。ここ1年半ほどたつのに何の返事も無いものですから、やいやい言うてもこれは検討されなかったのかと。そこに降ってわいたように、1週間前に何か幼保一元化、言ったこととどうつながるかわかりませんけれども。

ただ、苦言を呈したいのは、地元から先を見越して、この問題、一体化というのはいできないものかとい

うことで、自分たちも勉強しますから、ひとつ皆さん方もいろいろの先進例があります。それでできなかつたら、黒部だけの独自の幼保一体化を考えていただけないかと検討してもらおう、こうお願いしておいて、まだ返ってきていません。それで、1週間前によく、黒部も一元化という言葉が出てきたわけですね。そしたら、先ほど保護者から出たように、生地の保護者は飛び上がられたわけです。そういうことで、もうちょっと地元から上がった住民の声を大事にさせていただきたいと。タウンミーティングは市長になられてから2回ですけど、昨年度タウンミーティングの中で、小さいことですけど、メモとったんです。その返事はいまだに返ってきません。それだから、市長にお願いしたいのは、市民が言ったことに対して、これはバツ、これは通すということ、広報もありますから、そこへでも載せて、ちょっとそういう回答をいただきたい。

言いたいのは、幼保一体化のやつは当時から申し上げたが、いまだにその返事は来ておりません。それが、化けて一元化になったので、そういうことで苦言を呈しておきます。もっと真剣に取り組んでいただきたい。

これだけであります。答弁は不要です。

#### 【市長】

昨年のタウンミーティングの話がありましたが、ちょっと私は何を言われたのかわかりませんので、今調べさせていただきます。

基本的には、どんな要望でも必ず、例えば市役所の意見箱に入ったものについて全部答えていますし、またそれを市役所前に掲示しています。それは匿名であろうが、記名であろうが、記名の方にはきちんと返事を出してありまして、匿名の方には市役所前で掲示をさせていただいて、必ず答えておるつもりでありますので、もしそういうことがあったとすれば不徳のいたすところだと思いますので、そういうことがないようにしたいと思いますし、また、よく担当のほうと話し合っていたきたいと思います。

#### 【事務局】

どうもありがとうございました。

大変たくさんの皆さんからご意見をいただいたところでございますが、本日のタウンミーティングはそろそろ閉じさせていただきたいと思っております。

それでは、閉会に当たりまして、堀内市長から本日お集まりの皆様方にお礼も含めましてごあいさつ申し上げます。

#### 【市長】

長時間にわたりまして熱心にタウンミーティングに参加いただきまして、まことにありがとうございます。

補助金の削減の話もありましたが、とにかく行政サービス、公共サービスに対するニーズがどんどん増えています。核家族化が進んで、地域のいろんなコミュニティーがなくなって、やはり地域の住民の皆さんが困ったものをどこへ持っていくかといったら、ほとんど行政に持っていくんです。どんどん要望は増えます。それに行政はこたえなければならぬ。ところが、行政はいろいろ財政難でもありますし、予算も、しかも職員も減らせと言われております、ですから、どんどん行政ができる範囲というのは限られてきております。我々は、公務員として税金を使わせていただいているんなことをするわけですから、最大限の気を使って、最大限の努力をしなければならないということは当然です。ただ、それでも、公共サー



ビス、皆さん方のニーズすべてにこたえることはなかなかできないだろうと私は思います。

ですから、どうすればいいのか。これだけの公共サービスに対するニーズがあれば、この部分でどこまでが行政がやって、どこからは地元の地区の皆さんで、いろんなボランティアとか自治振興会の皆さんにお願いしたり、あるいはNPO法人にお願いしたり、企業の皆さんにお願いしたりして、全体でこの公共サービスに対して対応していかなければならない、それがやっぱり市民参画と協働だと私は思っております。

ですから、大変皆さん方にもご苦勞もおかけし、ご理解、ご支援もいただいておりますが、ぜひお互いに信頼関係を保つということが大事でありますから、ご意見も言っていただきたいし、そしてまたいろんな状況とか情報をきちっと共有して、それぞれの施策の実現に向かって努力していきたいと思っております。ですから、皆さん方には、今日参加されている方ばかりですから、こういう場に来ていただいて、いろんな状況をぜひ共有するということがまずは大事だと思います。

もう1つは、新しい黒部市にもなりました。そしていろんな大きな重点的な課題がございます。全体を見る力というのがやはり少し薄れてきているのかなという気もします。全体を見てどうあるべきかということも考える必要があるなど。もちろん、各地区の特に足元の問題というのは大変重要です。気にもなりますし、やはり自分たちの生活にかかわる部分が多いわけですから、それももちろん解決したり、要望にこたえていかなければならないんですが、全体と地域との、そういうやらなければならない課題に対してどうバランスをとっていくかということが大事です。皆さん方と大事なことはよく相談をするということですので、市の各担当のほうともよくご相談をさせていただきながら、そして、必要に応じては幾らでも直接お話も聞きますから、ぜひこれからもご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いを申し上げて、今日の御礼のごあいさつにさせていただきたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

#### 【事務局】

以上をもちまして、本日のタウンミーティングは閉会とさせていただきます。皆様方には、お忘れ物のないよういま一度ご確認ください。また、アンケートの用紙は、記入の上、会場の係の者にお渡しいただきたいと思っております。

本日はどうもありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

了